

イギリスの Cambridge 大学 Ph.D.コース 1年目の山本薫です。Information Engineering の Control Group というところに所属し、制御工学を学んでおります。入学から早くも八か月が経過いたしました。ここ数か月の日常、および研究生活について報告いたします。

【日常生活】

Cambridge での生活も早一年が過ぎようとしており、まだまだ苦勞することも多いですが、こちらの生活にもかなり慣れてきました。私にとっては初めての一人暮らし、しかも海外、ということでもとても不安だったのですが、Cambridge はとても住みやすく、買い物、自炊、掃除、洗濯等、たいして苦に思うこともなく、「やってみればできるものだなあ」というのが今の感想です。家の近くにアジア食材店があることもあり、日本食や中華を作ることが多いのですが、最近はこちらの食材を使った料理にも少しずつ挑戦しています。物価は高めかとは思いますが、Funai Overseas Scholarship のおかげで、金銭面で困ることは特になく、精神的にゆとりを持って生活することができています。

ただ、こちらの天気の変わりやすさにはまだまだ慣れません。快晴かと思えば数時間後には大雨、そしてまた快晴、などということもよくありますし、つい数日前まで真冬のような気温だったのに、突然真夏のような暑さと日差しが数日続き、かと思えばまた冬に逆戻り、ということもしょっちゅうです。そのせいか、皆天気がいいとここぞとばかりに肌を出し、公園は日光浴やスポーツを楽しむ人、昼間からビールを飲む人で溢れかえります。少し前まで天気の良い日が一週間ほど続いていたので、私も友人とテニスやバレーボール、サッカーを楽しんでいました。今はまた曇りや雨の日が続いているので、また天気が良くなってほしいと願っています。

【研究生活】

Engineering Department の PhD は、一年目に授業を取らなければならない、その試験を今学期に受けました。Cambridge では試験が各学期の終わりではなく一年の終わりにあり、すべてまとめて同じ時期に試験を受けなりません。私の所属する research group では、この試験の結果と、二学期間の Reading club (勉強会のようなもの) の評価、および first year report の評価で、今後 PhD を続けられるかどうかが決まります。First year report は、一年目の終わりに提出する研究報告書のようなもので、自分の研究内容や文献紹介、一年目で出た結果、および PhD 論文執筆に向けての研究の見通しなどを記述します。私の学科では八月末が締め切りで、試験も終わったので私もそろそろ執筆に取り掛かろうかというところ です。

私の日本の大学での専門は建物の制振構造でしたので、制御工学のアプローチを用いつ

つ建物の制振構造の研究をしたいと指導教員に伝えたところ、指導教員にも非常に興味を持って頂き、今のところ順調に進んでおります。私の指導教員は数学科出身なこともあり、着眼点や発想が違うな、と思うことが多々あり、ディスカッションをしているととても勉強になり、視野が広がります。少しでも多く彼から吸収しようと思うとともに、このような環境で研究ができることをとても幸せに思います。

【ラボの様子】

最後に、私が所属するラボの様子を少し紹介します。私のラボではコンピュータでの作業が多いので、一日中コンピュータの前に座って誰とも話さない、ということも起こり得るのですが、幸い **Control group** は皆仲が良く、集まって昼食をとり、午後にはイギリスらしく紅茶を飲みながら休憩したりしています。平日にしっかり研究した後は、金曜の夜にパブに行ったり、週末にスポーツを楽しんだりして、リラックスすることも大切にしています。いろいろ大変なことも多い留学生活ですが、このように友人にも恵まれ、楽しく毎日を送っております。